

# まつもと 公民館報



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 29

新春をいどころ城下町の祭典

## あめ市

「敵に塩を送る」の  
故事はどこから？

あめ市は江戸時代  
初期から続いている  
商家の伝統行事です。

その起源は、上杉謙  
信が武田領に塩を  
送ったとする説もあ  
りますが、「河辺家文  
書」や『信府統記』に  
は、謙信の義塩のこと  
は出てきません。宮村  
大明神（現深志神社）  
の神主が「市神の塩」  
を売ったと書かれて  
おり、こちらの説の方  
が、有力のようです。

1月11日が市初め  
の行事で、市神の塩  
を売っており、江戸時  
代中期には飴が売ら  
れるようになって、  
「あめ市」と呼び方が  
変わり、幕末からは  
「初市」になり、近年  
は「あめ市」に戻っ  
ています。

時代とともにかた  
ちを変えながら、続  
いている行事です。

# 梓川横沢町会に受け継がれる スースーとおんばしら

新しい年を迎える風習は、長野県内でもいろいろなものがあります。梓川地区の横沢町会の一部では、道祖神に付随して、スースーとおんばしらと呼ばれる行事が、受け継がれています。

## 珍しい行事

道祖神祭りを行う前に、スースーとおんばしらが行われます。おんばしらとは、諏訪神社で行われる御柱祭とは別のもの、十メートル弱のはしご状にした柱に、五色の紙や飾り物を飾り、五穀豊穡や家

内安全などを祈るもので、1月2日に子どもたちの行事として行われています。

スースーとは、子どもたちが五色の紙を付けたオンベを持って『スースードウソジンノオンマエモウス』と言いながら、道祖神の寄付を集めて家々を回ることです。



出来上がったおんばしら

昔は子どもの、しかも男子の祭りであった、道祖神にまつわるこれら行事は、時代の流れとともに女子も参加するようになり、やがて大人に柱を立ててもらうようになりました。

一時途絶えていたおんばしらは、平成22年に町内の有志が中心となつて復活し、さらに平成27年には、『横沢の御柱とスースー』として松本市の文化財に指定されました。

## 横沢町会から学ぶ コミュニティ

横沢町会では、公民館を中心に、子ども会育成会、長寿会、農家組合、地域活性化を旨とする組織などで、月ごとに子どもたちが参加できる催事を計画実施しています。

スースーとおんばしらで正月を祝ったあとに、春には、公民館近くの田んぼに菜花の種をまきます。七夕祭りの他、菜花の摘み採りをしたあとにさつまいもを植え、秋には収穫祭を行います。

「みんなで育てた餅米を使って、餅つき大会を行った時には、願い事を書いて放つた風船が千葉まで飛んだことが確認され、子どもたちが喜んでくれたのが嬉しかった。」

と主催の百瀬町会長が教えてくれました。

このように、催事を介し親子の参加も多く、地域の人の交流も続けられています。

## 子ども育成と文化継承

スースーとおんばしらを始めとする子ども参加の催事を継承し、自然が豊かな横沢町会の特徴を最大限に生かした作物作りなどを実施することは、子どもの健全育成と地域文化の継承に繋がっていくことではないでしょうか。

一度途絶えたスースーとおんばしらを復活させ、文化財



上手く出来たかな？

にまで指定された横沢町会のスースーとおんばしら、来年も1月2日に建てられる予定です。

## ちよこつと 松本さんぽ

### ～アルプス公園に姿を見せたオオワシ～

日本産のワシ・タカの中では最大。比較的分布の狭い鳥で、オホーツク海沿岸に分布し、冬期は北海道東部をはじめ本州中部まで越冬。長野県では諏訪湖へ18年前から毎年1羽のオオワシが越冬することは知られているが、他の地で見かけることは稀である。

写真(真ん中)のオオワシは若鳥であるが、松本に姿を見せることは珍しい。一緒に写っている鳥はトビ。比べるとその大きさがわかる。



(撮影 2016.11.12 松本市アルプス公園)



和田町の鳥追い(お日待ち)

鳥追いは、三九郎と並ぶ、小正月に行われる子ども行事です。

地域によって少々歌詞の違いはありますが、「今日はだれの鳥追いだ。次郎・太郎の鳥追いだ。おれもちょっと追ってやろ。ほんがらほい。ほんがらほい。」と歌いながら、鳴り物をならして町内を回ります。

昔は農村部で広く行われていた行事でしたが、最近では都市化や少子化等の影響で、ほと

### 江戸時代から続く 小正月の子どもの伝統行事

現代でも  
伝えられている  
鳥追い

鳥追いはその名の通り、豊作を祈って農作物を害する鳥を追ひ払う正月の行事です。年初めに行い、その効果が秋まで持続するという願いが込められています。

んど行われなくなりました。

### 和田町の鳥追い(お日待ち)

和田地区和田町では鳥追いが今も行われています。川窪茂町会長にお話を伺いました。

昔は松のとれる小正月に、徹夜で鳥追い行事を行ったことから「お日待ち」と称しています。

今年も、1月7日、小学校3年生から6年生の子どもたちが、町内公民館に集まり、

## 写真でつづる まつもとの今昔③①

～本町通り～



(1998.2.27 写真提供: 日本報道写真連盟)

本町と伊勢町の交差点。アーケードには、イルミネーションが飾り付けられている。



(2016.12.26 撮影)

アーケードが外された通りは広々として、奥行きを感じる。18年前の建物も残っている。

### 今井地区の鳥追い

今井地区でもいくつかの町会で鳥追いが行われています。鳥追い唄を歌ったり、鳴り物を鳴らしたりして町内を回ります。小正月の子ども行事「三九郎」と「鳥追い」

夕方5時から町会内の各戸を回りました。公民館には鳥追いの専用のリヤカーが備えられており、太鼓を載せ、提灯を飾ります。そして鳥追い唄を歌います。各家の玄関では「福の神舞い込め」と歌い、無病息災五穀豊穡を祈ります。

町会長はこの貴重な伝統行事を、町会全体で力を合わせて傳承させたいとおっしゃっていました。



今井地区の「鳥追い」

が合体した形で傳承されてきました。三九郎と一緒に鳥追いをを行うのが以前からの風習で、30年ほど前までは、子どもたちの自治活動として、子どもたちが主体で唄を伝え、鳥追いのあとは公民館に泊まり翌朝まで続く行事だったそうです。

お話を伺った桜井健五さんも、「子どもたちも楽しみにしている、守り伝えたい小正月の行事です。」と話されました。

## おこひる

器が好きである。もう10年以上も前のことだが、「北大路魯山人の名陶展」を見に美術館に足を運んだことがある。魯山人は、陶芸

のみならず、書、絵画、漆芸等、生活全般にいたるまで、先人たちの残したものに深い関心を示し、それが彼自身の創作活動に強い影響を及ぼしていたことはよく知られている。

▼ショーケースに飾られた皿、小鉢など、一つひとつの作品の美しさに目を奪われた時の記憶は今も鮮明である。

魯山人の器とは全く別次元の話だが、器は使われてこそ価値が出るものだろう。▼大切なものだからと、箱に入れたまましまっただけでは、器がかわいそうである。もったいないから使わないのではなく、使わなければもったいない。

▼料理を作りながら、これほどの器に盛り付けようかと考える。或いは、使いたい器に合うメニューは何かと、逆の発想もする。

▼ありきたりの内容であっても、器次第で美味しさの半分は保障してくれるのではないかと考えるのは、手抜き主婦の言い訳に聞こえるだろうか。

地域探訪

歩まじつ松本!

32

内田の史跡を巡るコース

内田地区にはウオーキングコースと史跡めぐりコースがあります。文化財見て歩きコースを広げた、史跡めぐりの南回りコースを歩きました。(マップは参考です。)



地区内には縄文時代の遺跡をはじめ、数多くの史跡があります。現在内田公民館では、ウオーキングと史跡めぐりを一緒にした史跡めぐりウオーキングが行われています。内田公民館から片丘線を南へ向かい、案内看板に従い東へ上ると、牛伏寺と縁の深い常楽寺に到着します。この境内には市特別天然記念物のコウヤマキの原木がゆったりと

そびえています。そこをさらに東へ上ると、大和の大神神社の分社である大神社と宮の下遺跡があります。そこから北へ向かう道路では、松本平と北アルプスが一望できる絶好のビューポイントがあらわれます。その眺望を楽しみながら歩いていくと、あじさいで有名な法船寺、庭園の美しい桃昌寺が右手に見えてきます。シーズンが来

ればその景観は最高です。それを過ぎて舟沢川の手前を西へと下ります。旧家のたたずまいなどを眺めながら片丘線近くまで下ると、



赤い太鼓橋があるクネノウチ八幡宮にたどり着きます。そこから、往時と変わらぬ静かな田園風景を眺めながら、馬場家住宅にむかいます。まわりには遊歩道が整っており、置かれた休憩ベンチから松本平を眺望することもできます。すぐ近くにあるエリ穴遺跡の案内を確認し公民館に戻ります。ふりかえると、今歩いてきた寺社の屋根や、森がぐるりと見渡せる、約一時間のコースでした。内田地区には多くの史跡のほか、古くからのおもむきのある旧家が点在し、個人の祀る小さな社も道すがら見られます。縄文時代より集落が栄え、お寺などとともに発展し現在に至る、松本の歴史の縮図の一部をさすがに美しい景色とともに見ることができました。

わがまち自慢 第14回 中山地区の特産につぐら作り

「つぐら」とは稲わら細工の器を総称するものであり、猫の寝床として使われる猫つぐらが有名です。中山地区在住の下里光昌さんが平成26年の文化祭で猫つぐらを出展したことをきっかけに、つぐら人気が徐々に広がり始めました。翌年には、すぐれた地方産品を発掘し海外に広く伝えていく経済産業省補助事業のプロジェクト「The Wonder 500」に「松本つぐら」が選定されました。

選定を受けて中山公民館で猫つぐら作りの講座を企画したところ、多くの参加者が集



まる人気講座となりました。その後、受講者の有志が集まって協議を重ね、10月同好会発足に至りました。現在は20名を超える幅広い年齢層の会員がおり、世代間交流の場としても役立っています。事務長を務める百瀬彰彦さんは、「松本つぐらを名産にして将来的には中山地区の地域づくりを担っていきたい」と力強く語っていました。つぐら作りの活動を地域に根付かせ、稲わら細工の輪を地域外へも広げていきたいものです。

地産地消のかんたんレシピ

やみつきになる 『塩だれキャベツ』

簡単に居酒屋の味を家庭で再現!!

材料: キャベツ、煎りゴマ、塩、ごま油

1. キャベツを適当な大きさに切り、塩で揉む
2. 塩出ししてボールに移す
3. 塩とゴマを振り、ごま油をかけて混ぜる

